

<令和7年4月定例記者会見>

1 開催日時

令和7年4月7日（月）午前10時30分～午前11時20分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、河北新聞社、毎日新聞社、岩手日報社、朝日新聞社、読売新聞社

4 発表事項

【案件外】

○市長年度初めのあいさつ

年度始めのお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。記者会見の冒頭をお借りして、一言所感を述べたいと思います。

まずは、昨年度につきましても市の様々な情報発信に御理解と御協力をいただきましたこと改めて御礼申し上げます。令和7年度がスタートしました。現下の情勢を顧みますと、外に目を向けると混迷する国際情勢、国内では、長期的に人口減少が見込まれる中、物価高騰が生活を直撃している状況があるなど、様々な課題が山積しております。そのような中、本市においては、令和7年度は、社会的包摂性の高い地域社会「やさしさに包まれた滝沢」の実現に向けた取組を進めている第2次滝沢市総合計画の2年度目となります。前期基本計画で掲げる五つの重要な視点「つながる滝沢」「こどもまんなか滝沢」「いきいき滝沢」「まなぶ滝沢」「はたらく滝沢」に基づき、地域社会におけるやさしさの循環を更に加速させるため、職員一丸となって政策・施策を展開してまいり所存であります。

この第2次滝沢市総合計画を推進する大切な予算となる、令和7年度一般会計予算につきましても、過去最高規模となる222億5,200万円を計上し、先月の市議会3月会議において議決をいただきました。同予算へは、5歳児健診の新規実施、産後ケア事業の拡充、がん患者支援施策の拡充などの子育て・福祉分野での新たな取組のほか、若者の活躍を後押しする取組や、ICT企業集積に向けた具体計画への着手など、今後の滝沢市の新たな価値の創出につながる予算であると考えております。議会で可決いただいた予算につきましても、スピード感をもって、執行に努めてまいります。

新年度を迎え、新しい環境でスタートした皆さんも多いと思います。この4月、市では、17人の新たな職員を迎えました。新たに加わった職員も含め、全職員の力を結集しながら、私が先頭に立ち、活力のある幸福を実感できる地域づくりを進めてまいりたいと考えております。

引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

(1) クラウドファンディングの実施について（観光物産課）

令和6年度のチャグチャグ馬コでは、17万5千人という過去3番目の人出を記録しました。その一方、装束馬の出馬頭数は60頭と、ピークであった平成2年の102頭から半分近くまで減少しており、大きな課題となっております。

このようなチャグチャグ馬コ^{チャグチャグ馬コ}の現状や課題、馬主さんの思いについて、より多くの皆さんに知っていただきたく、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングに挑戦いたします。この取組をきっかけに、チャグチャグ馬コ^{チャグチャグ馬コ}の新たなファンの獲得と伝統文化の継承に向けたさらなる支援につながることを期待しております。

3度目となる今回も、昨年引き続き専用返礼品として本番の行進行事に参加できる権利を御用意いたしました。基本的にチャグチャグ馬コ^{チャグチャグ馬コ}には、出馬者とその家族しか参加できませんので、またとない非常に貴重な機会となります。

さらに、チャグチャグ馬コ^{チャグチャグ馬コ}に出馬する馬の馬耕により作られたお米を、今年度産米の先行予約として出品予定としております。現代では数少なくなった馬耕による稲作ですが、農用馬本来の活躍にて作られるおいしいお米を味わっていただき、市の馬事文化に思いをはせていただけますと幸いです。

なお、本プロジェクトにつきましては、マスコミ各社の皆様の周知のおかげもあり、昨年も多くの御支援を賜りました。誠にありがとうございました。人と馬とが一緒に築いてきた風景を後世に残していくため、引き続き皆様の温かい御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(2) 令和7年度鞍掛山山開き式について（観光物産課）

岩手山の麓にあります鞍掛山は、毎年、県内外から3万人近くの登山者が訪れており、ハイキング気分であらゆる季節に気軽に登れることから、多くの方々に賑わいを見せています。

また、季節によって、景色が変わる鞍掛山はリピーターも多く、毎日登られる方もいるなど、多くの登山愛好家にも親しまれています。

今年も、鞍掛山山開き式を昭和の日である4月29日火曜日・祝日の午前9時から、たきざわ自然情報センター前で開催します。事前申込は不要です。気軽に参加できる行事ですので、皆様、ぜひご参加ください。

(3) チャグチャグスパークの発売について

この度、有限会社高檜ビル^{たかやぐら}から「チャグチャグスパーク」が発売されます。使用されるりんごの品種は「はるか」と「サンフジ」の2品種で、果汁33%の「あおい」と果汁14%の「はるか」の2種類のラインナップになっています。どちらにも滝沢市のブランドりんごにもなっている「はるか」を使用することで滝沢らしさを感じてもらいたいと考えています。

また、市の伝統行事チャグチャグ馬コ^{チャグチャグ馬コ}について、馬の飼育負担が増加し、出馬頭数が減少しているなかで、同社より行事の存続を支援したいというお話もいただきました。このチャグチャグスパークの収益の一部で支援品を贈呈する予定です。どなたでも気軽に支援しながら特産品であるりんごの美味しさも楽しめる商品です。

これからの時期、お花見など各種行事も始まってまいります。スマートドリンクとしてもご活用いただけたらと思いますので、ぜひ、チャグチャグスパークで乾杯しましょう。

なお、4月29日から販売開始予定であり、販売場所は盛岡市肴町商店街にある同社のカフェのほか、ビッグルーフ滝沢のたきざわキッチンにおいても販売される予定となっています。

マスコミ各社の皆様におかれましては、ぜひともお取り上げくださいますようお願いいたします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：クラウドファンディングの返礼品の内容について詳しく教えてください。また、令和6年度の実績は何件でどれくらいの寄附が集まったのですか。

経済産業部長：先ほど市長から、このクラウドファンディングで特別に出す返礼品の話はありましたが、その他は、滝沢市のふるさと納税の返戻品すべてが対象です。寄附した方に希望する返礼品を選んで頂く形となっており、ふるさと納税を活用し、馬コ事業へ寄附いただくこととなっています。令和6年度は127件で170万2千円の寄附がありました。

記者：チラシに記載のある2つ以外の返礼品も対象ということでよろしいでしょうか。

経済産業部長：そうです。

記者：チャグチャグ馬コへの参加権とは具体的にどのようなものですか。

経済産業部長：馬コに乗ることはできませんが、衣装を着て、一緒に近くで歩いていただくイメージです。

市長：鬼越蒼前神社のお参りからゴールの盛岡八幡宮までの約1.4kmを一緒に歩いていただきます。

記者：寄附した方で令和6年度の行進に参加した方はいたのですか。

経済産業部長：令和6年度に行進に参加を希望した方はいませんでしたが、令和6年度に寄附した方が1名、令和7年度に行進に参加予定です。また、補足ですが、通常のふるさと納税であると、制度上、滝沢市民はふるさと納税をしても返礼品がもらえないので、ふるさと納税をいただく方は県外の方が多いのですが、このチャグチャグ馬コのクラウドファンディングに関しては、滝沢市民の方からも寄附いただいている、ありがたく存じております。

記者：昨年度実績の170万2千円のなかにはそういった滝沢市民の方も含まれるということですか。

経済産業部長：そうです。

記者：チャグチャグスパークが制作されたきっかけを教えてください。

経済産業部長：さんさのスパークが元々あり、馬コもいかがですかという話をいただきました。滝沢市ではこれまで、その他にも連携していただける企業と協力し地域の活性化を進めてきました。例えば、くずまきワインさんとの連携でりんごワインのポムを発売したりということがありました。そういった今までの実績もあって、今回お声掛けいただいたものです。

記者：滝沢市としてはどのように協力されたのですか。

経済産業部長：本日の記者会見をはじめとした周知やロゴの考案、ビッグルーフ滝沢での販売に係る仲介などをして協力しています。

副市長：開発段階においても、そもそもりんごの供給ができるのか、というところは農林課が間に入り、市内農家の皆さんへ確認するなど協力しております。

記者：クラウドファンディングについて、馬耕で作られた米は返礼品として出品するとい

うことですか。どの品種の米を何キロ返礼品とするのですか。

経済産業部長：返礼品としての出品です。品種はあきたこまちの予定で、量はこれから決めていきます。

記者：チラシにはあきたこまち10キロとありますが、未定ということですか。

観光物産課長：10キロ3万6千円という寄附単価でクラウドファンディングのほうには掲載させていただいております。

記者：チャグチャグ馬コ行進への参加権とは別の返礼品ということですか。

観光物産課長：別の返礼品です。時期としては今年の秋の米となります。

記者：滝沢市の返礼品のラインナップとして、馬耕による米はもともとあったものですか。

観光物産課長：今回初めてとなります。

記者：基本的な話になりますが、そもそもチャグチャグ馬コとは農耕馬のお参りのために市内を練り歩くという祭りなのでしょうか。1日のみの祭りなのですか。

経済産業部長：1日のみです。元々、各家から滝沢市の鬼越蒼前神社に、田植え終わりの旧端午の節句が終わったころにお参りをするという習慣があり、そこから始まったものです。それぞれの家から鬼越蒼前神社へお参りをする際に、馬を着飾って日頃の農耕に感謝を示すために、装束を着せたことから始まり、それが昭和に入って、鬼越蒼前神社に集まり、盛岡八幡宮まで行進するという行事になったという歴史があります。

記者：いつから始まったものですか。田植えが終わって、馬の頑張りを称える祭りということですか。

観光物産課長：盛岡八幡宮まで行くようになったのは昭和の初期からですが、五穀豊穰と家族の健康を祈願して、古くは江戸時代からという話があります。祭りというか、伝統行事でございます。

記者：行進行事へ参加するための寄附額は何円ですか。

観光物産課長：20万円の寄附額で行進へ参加できます。

副市長：チャグチャグ馬コは伝統行事なので、本来は誰でも参加できるものではなく、家族や関係者のみが参加できる行事であります。しかし、このような形で参加の機会をつくり、文化の保存・継承に寄与していただきたいという趣旨です。

記者：家族や関係者のみでは保存・継承が厳しくなってきたという背景でこのような取り組みをしているということでしょうか。

経済産業部長：馬の数も減ってきていますし、元々は農耕馬ですので、滝沢市の基幹産業である農業というところで、今は農家に1台トラクターがあるのと一緒で、昔は馬が1～2頭いて、農業を手伝っていました。また、一緒に家族のように生活していたという伝統があり、その中で、家族単位でお参りをするような風習がチャグチャグ馬コのベースになっていました。ただ、現在は、農耕馬としてというよりは、チャグチャグ馬コのために馬を飼っているという方も多くいらっしゃいますので、こういう伝統文化があるということを経々の方へ周知し、知ってもらおうということも目的のひとつです。クラウドファンディングをしてお金を集めるということもありますが、これをきっかけに現状を知っていただき、できるだけ継続していきたいという思いがあります。

記者：滝沢市も馬を保有しているのですか。

経済産業部長：市有馬が2頭います。

記者：滝沢市でもチャグチャグ馬コのために馬を飼っているということですか。

副市長：飼養している農家さんが減っていく中で、市として馬を飼い、繁殖し、仔馬がチャグチャグ馬コに参加してもらえるようにということで、市でもそのような体制を組んでいるということです。

記者：寄附した方で、令和6年度は行進への参加者がおらず、令和7年度の行進行事には参加希望者が1名いらっしゃるということですが、その方が寄附者で行進に参加する1人目ということでしょうか。

観光物産課長：そうです。

記者：クラウドファンディング3年目で希望者が今までいなかったということですか。

観光物産課長：最初の年は参加権は用意していませんでした。2年目である令和6年度に初めて返礼品として参加権を用意し、ご応募いただきました。

記者：チャグチャグ馬コの行進行事はいつ行われるのですか。

観光物産課長：毎年6月の第2土曜日です。

記者：チャグチャグスパークについて、りんごも市の特産なのですか。

経済産業部長：そうです。その他にも、スイカ、サツマイモが特産です。

市長：農業としては酪農と米がベースにはなります。クラウドファンディングの取り組みは、馬のたい肥で米を育てる循環型の取り組みとなっています。

記者：チャグチャグスパークを1本購入すると何円がチャグチャグ馬コの支援に使われるのですか。

農林課担当：具体的に何円というのはまだ決まっていますが、支援頂いたお金で滝沢市のチャグチャグ馬コ保存会へ支援品が贈られます。

記者：購入者としてはどれくらいが支援に使用されるのか分かった方が買いやすいと思いますが、いかがでしょうか。

副市長：仰るとおり、具体的に分かった方が購入される方の動機付けにも繋がると思いますが、どのくらい売れるのかということもありますので、これから決めていきます。

記者：チャグチャグスパークの販売量は何本ですか。

農林課担当：現段階では1,200本です。りんごジュースとして保存している分もあり、それに炭酸を入れれば増産できるようになっています。

記者：チャグチャグ馬コは、観光客の方も沢山来られますし、イベントとしては有名なものだと思います。チャグチャグ馬コの経済効果はどれくらいなのですか。産業面からみて、どれくらい、滝沢市にとって、なくてはならないものなのでしょうか。

市長：伝統行事という面があります。元々、南部曲り家で馬と一緒に生活していた歴史があり、馬事文化に対する想いがある方が沢山いらっしゃいます。チャグチャグ馬コに参加している馬のたい肥で育てたスイカを購入してもらおうと馬コ事業への寄附になるという取り組みも行っています。また、前日のイベントへ参加したり、グッズを購入しながらチャグチャグ馬コへ訪れたり、様々な方が一緒になって、この馬事文化を支えていただいています。行進の当日は、ビッグルーフ周辺の参道に集まる人が年々多くなってきています。15分から20分ほどの時間のために沢山の人が見に来てくれるというのは凄いことだと思います。昨年度は、東京で行われる日本橋京橋まつりに

もチャグチャグ馬コが参加しました。その際に沿道のお客様から多くの声を掛けていただきました。物価高騰の中で必死に頑張っている農家の皆さんを支えながら、今後とも、県外のお客様にも来てもらえるように頑張っていきたいと思っています。

経済産業部長：経済効果までは計算していませんが、市長が申し上げた通り、両側面がございまして、馬事文化を支えていく、守っていくという面が強い行事です。これは、経済効果では測り得ないところだと考えています。経済という考え方からすると、チャグチャグ馬コの良いところであり悪いところでもあるのですが、行進が1日で終わってしまいますので、経済波及がしばらく祭り体系ではあります。行進自体は1日で終わりますが、ビッグルーフでお祭りをしたり、市内商工業者と協力してグッズを作ったり、先ほど話に上がったように東京のイベントへ参加するなど、年間を通して盛り上げていけるよう、知名度を生かしていきたいと考えています。経済波及効果という面では難しいところではありますが、今まで滝沢市が歴史の中で刻んできた文化というものをいかに守るかということも踏まえ、考えていかななくてはならないものと考えております。

記者：クラウドファンディングについて、寄附する際「これは馬コへの支援のための寄附」というのは分かるようになっているのですか。

観光物産課長：クラウドファンディングについては、ふるさとチョイスという掲載サイトのみでの申し込みになります。サイトが分かれており、特設ページがあるので分かるようになっています。

記者：令和7年度のクラウドファンディングに寄附すると、令和8年度の行進へ参加する権利を得られるという解釈ですか。

観光物産課長：そうです。

副市長：クラウドファンディングの期間も7月5日までとなっております。

記者：今年の寄附者が今年に行進へ参加できるということではないのはなぜですか。

観光物産課長：今年寄付した人が今年に行進へ参加するというスケジュールでも行いましたが、4月からスタートですぐに6月の行進へ参加するというのはスケジュール的に厳しく、このような形になりました。

記者：ふるさと納税は源泉徴収の期間も関係すると思うのですが、なぜこの時期なのか。

経済産業部長：先ほども申し上げたとおり、寄附を集めたいということもあるのですが、馬コをいかに盛り上げるか、PRしていくかということも考えての時期です。これまでも期間については様々模索しましたが、行進当日もPRしながら次に繋げていくということもできるため、この期間となりました。

記者：寄付額が何円集まったらこのような支援ができる、というのを具体的に教えてください。

観光物産課長：チラシにも記載がありますが、馬コ関連事業へ使用されます。滝沢市では、1年に1回の行進行事だけでなく、各施設や保育園、学校などへ訪問し馬コを披露する機会をつくっています。その際の出馬手当などに充てられます。

市長：成人式やチャグチャグロックフェスといったイベントへも訪問していただいています。

経済産業部長：馬主さんたちが自分の馬を披露する場所を市で提供し、出馬手当という形で飼育資金も入ってきたほうが、飼育するモチベーションにも繋がっていくと思いますので、市としては機会を増やしていきたいと思っています。

記者：行進行事への参加権は先着何人ですか。また、大人とありますが、何歳からですか。

観光物産課長：先着1名です。年齢までは指定していませんが、大人の方で14km歩くことができる方という条件です。

記者：チャグチャグパークについて、記者会見要旨には販売希望価格399円とありますが、チラシは400円となっています。どちらが正しいですか。

農林課担当：直前までは399円と伺っていましたが、チラシが本日の朝に頂戴したものですので、おそらくキリのいい数字の400円に変更となったものと認識しています。

記者：馬耕の米は今までもあったのですか。

観光物産課長：馬耕で作られた米というのは今までもありましたが、今回、初めてクラウドファンディングの、ふるさと納税の返礼品のために作ったというものです。

記者：市内の農家の方が作った米なのですか。

経済産業部長：そうです。

記者：発送時期は今年の秋ということですか。

経済産業部長：そうです。

市長：馬を飼っていて、米も育てている農家さんが行っています。馬耕のために馬を調教しなくてはいけない期間が必要で、昨年からは代掻きなどを馬に教え込みながらやってきました。

記者：元々、馬を飼っていたけれど馬耕には使用していなかったということですか。

経済産業部長：そうです。

記者：クラウドファンディングの行進行事への参加権について、大人が対象ということですが、18歳以上でしょうか、それとも20歳以上でしょうか。

観光物産課担当：大人で14km歩くことができる方という条件で、年齢はあえて明記していませんが、18歳以上と考えていただいてもよろしいかと思います。

記者：本日の記者会見で市長が被り物をされていますが、クラウドファンディングのPRの際はいつも被り物をされているのですか。

市長：内容に合わせて、馬だけでなくスイカやりんごなど、市のPRのために被っております。

6 その他記者からの当日質問

記者：盛岡赤十字病院の誘致について、アンケート調査も行われていたと思いますが、今年度の取り組みを教えてください。

市長：アンケート調査は盛岡赤十字病院誘致に関するものではなく、地域医療に関する内容ということで、市民の皆様の意識調査をしたものであります。このあと、有識者の方々にも加わっていただき、今後の予定についてご報告できるようにしていきたいと思っております。市民の皆様から様々ご意見を頂戴しましたので、滝沢市で考える部分や、広域で考えていかなければならない部分など、地域医療に関しては様々な側面がありますので、その部分もしっかり見ていながら、市民の皆様にご報告していき

たいと考えております。

副市長：少し補足いたします。昨年度のアンケート結果を現在公表している状況であります。アンケート結果を踏まえて、令和7年度は、医療と介護の連携というニーズもありますので、福祉施設の方々へもヒアリングを行いながら、滝沢市としての医療のあり方の方向性を示していきたいと考えております。

記者：令和7年度内に方向性を示されるということですか。

市長：そうです。医師会とも連携しながら丁寧に取り組んでいければと考えています。また、冒頭のあいさつでも申し上げた5歳児健診に関連しまして、これまでもリカレント教育の取り組みの中で、発達障害や子育てに不安のある保護者の方々から募集し講座を開設していました。こちらに対してとても反響が大きかったこともあり、お子さんの発達状況など不安に寄り添いながら適切な支援に繋がるようにしていきたいと考えています。地域医療に関するアンケートだけでなく、これからも市民の皆さんと対話し、気が付いたことに率先して取り組んでいきたいと考えています。